

商業部会長報告

1. 会議名 **商業・観光料飲 合同部会（オープン）**
2. 日時 **2023年9月20日（水） 14：00～15：30**
3. 場所 **秋田商工会議所 7階 ホール80**
4. 出席者 **24名（商業部会9名、観光料飲部会6名）**
5. 懇談 **農産物等の地産地消の推進に向けた取り組み**
JA秋田なまはげ 代表理事組合長 佐藤 広美 氏
秋田地区営農センター長 石井 直樹 氏
JA秋田中央会 営農農政部次長 藤嶋 美由紀 氏
「農家のパーティ」ネットワークの取り組み
秋田市産業振興部産業企画課 主査 柳樂 佳師実 氏
主査 須田 和也 氏

(1-1) JAグループ秋田における地産地消の取り組み

□ 農産物直売所

- ・ **県内11か所、関連直売所を合わせると43か所で県産農産物を販売**し、横手市・平鹿総合病院では週2回、地元JA直売所で移動販売を実施し、夏の2か月間は地元野菜で作った給食を提供している。

□ 食農教育

- ・ **県内13JAにおいて、2006年からJA全農教育プランを策定し食農教育を実施**することで、地域・学校・家庭を問わずあらゆる世代にアプローチしている。



農業体験（田んぼの生き物調査）



地場産学校給食（フキ刈り体験）



生活文化・食農教育
（秋田県立大学朝食プロジェクト）

□ 国消国産

- ・ 「**国民が必要として消費する食材は、できるだけその国で生産する**」という考え方は、**持続可能な開発目標（SDGs）の達成にも繋がる**ものであり、食料を生産する農業・農村などを支えたいと思う方が一人でも多く増えることを願っている。

(1-2) JA秋田なまはげの地産地消に向けた取り組み

□ 日本一を目指す枝豆栽培

- ・ 2010年度から「**目指せ！えだまめ日本一！**」を掲げ、県全体で栽培強化に取り組み、**当初10haに満たなかった栽培面積が60haまで増加した。**

□ 「今朝採りたて枝豆」の販売

- ・ 2017年度より(株)あきたベジフルサポートと連携して、**秋田市で朝に収穫した食味・品質共にワンランク上の枝豆を、その日のうちに市内量販店の店頭**に並べ、**最速で消費者へ届ける取り組みを開始。**
- ・ 専用袋や収穫日を記載したタグを付けることで**他商品との差別化を図り**、スーパー12社44店舗で**数量限定で販売。販売金額・出荷数量共に販売開始時から順調に伸びており、枝豆販売の主力商品として定着してきている。**

□ 「今朝採りたて枝豆」の活用

- ・ 2022年度から**秋田市内企業向け無人販売、秋田新幹線こまちで輸送・関東圏での店頭販売、秋田市役所等での出張販売**を実施し好評を得ている。



(1-3) 質疑応答

- Q. 生産資材価格が高騰する一方で、農畜産物価格が横ばいの現状をどう捉えているのか。
- A. 農畜産物価格に反映されない理由は様々あるが、そもそも食料の62%を輸入に頼るなか、必ずしも国（県）産にこだわる必要がない。JAグループで各消費者団体や販売店等と交渉を進めているが難しい面が多々ある。国はフランスの先進事例をもとに調査・検討を進め、地方は財政がひっ迫するなかでも手厚い支援を講じているが、近い将来、生産者が減少することで国産農産物が簡単に手に入らなくなるのではと危惧している。【佐藤氏】
- Q. 地産地消の推進には農家と消費者の接点を多く作る工夫が必要だと思うが。
- A. 定期的な出張販売のほか、広小路バザールをはじめとした各種イベントへの出店で秋田市産農産物を広めたいと考えている。【石井氏】
- Q. 生産者の所得向上に繋がるように取り組んでもらいたい。
- A. 「今朝採りたて枝豆」など、他商品と差別化し消費者への定着化を図ることで、市況相場に影響されない安定価格を確立させ、生産者の所得向上を目指したい。

(2) 農家のパーティ ネットワークの取り組み

□秋田中央地域地場産品活用促進協議会

- ・ 2018年4月「JA秋田なまはげ」の発足を契機に、**JA秋田なまはげとその管内3市（秋田市、男鹿市、潟上市）が連携するネットワーク**を立ち上げた。
- ・ **2022年度末時点で会員数は218、売上総額は112,605千円と順調に伸びている。**

□2022年度末の活動実績

- ・ 県内外プロモーション

県外PR：協議会主催9事業、秋田市との共催6事業 県内PR：11事業

- ・ 商談会

R5.2/10 農家のパーティネットワークまるごと商談会 **【商談成立：22件】**

R5.2/15～2/17 こだわり食品フェア2023 **【商談成立：21件】**

- ・ ECサイト「あきたづくし」

2022年度末実績：販売総額：92,406,450円、注文件数：25,132件

- ・ その他

R5.1/27 研修会「食品製造に求められる衛生管理の現状についての講演等」

R5.2/26 交流会「秋田県内の若手事業者によるパネルディスカッション」

商品開発 5件（秋田市産いちじくバター、和梨サイダーほか）